平成２９年度第１回千葉市生涯学習審議会　議事録

１　日　　時

平成２９年７月２１日（金）午前１０時から午前１１時１０分まで

２　場　　所

千葉ポートサイドタワー１２階　第２会議室（千葉市中央区問屋町１－３５）

３　出 席 者

（１）委員

西川明委員（会長）、秋葉英一委員（副会長）、伊藤麻里委員、岩切裕委員、小川直哉委員、小澤えみ子委員、片桐美和子委員、金田榮弘委員、君塚甚一委員、河野功委員、髙塚隆委員、田原洋子委員、長澤成次委員、松波真由美委員

（２）事務局

大崎生涯学習部長、山田生涯学習振興課長、君塚放課後子ども対策担当課長、山口統括管理主事、芦田文化財課長補佐、太田中央図書館読書環境整備担当課長、田島生涯学習振興課長補佐、西森主査、渡辺主事

４　次　　第

（１）開会

（２）議事　　「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況に係る千葉市教育委員会事務点検・評価について

（３）閉会

５　会議経過

別紙のとおり

午前１０時開会

○司会（田島生涯学習振興課長補佐）　定刻となりましたので、ただ今より平成２９年度第１回生涯学習審議会を開会させていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、生涯学習振興課の田島と申します。よろしくお願いいたします。

本会議は、千葉市情報公開条例第２５条に基づき、公開で会議を開催いたしますが、傍聴の方はいらしておりません。

また、議事録につきましても、公開することとなっております。

議事録の内容につきましては、議長の承認をもって、本会議の承認とさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。

本日の委員の出欠でございますけれども、現在、遠山委員が今のところいらしておりません。

千葉市生涯学習審議会設置条例第６条第２項の規定により、本会議の開催には過半数の委員の出席が必要でございますけれども、現在１５人中１４人の委員に出席いただいておりますので、会議は成立していることをご報告申し上げます。

また、前回の審議会より委員の改選があり、新委員がいらっしゃいますので、私の方からご紹介させていただきたいと思います。

前任の上妻委員に替わりまして、新たに伊藤　麻里さんが委員になられました。

また、前任の小椋委員に替わりまして、新たに小澤　えみ子さんが委員になられました。

以上、御二方が委員になられましたので、よろしくお願いします。

職員紹介・資料確認

○司会（田島生涯学習振興課長補佐）　続きまして、事務局の職員を紹介させていただきます。

（職員紹介）

それでは、会議資料の確認をいたします。

（資料確認）

議題１　「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況に係る千葉市教育委員会事務点検・評価について

○西川議長　議題１　「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況に係る千葉市教育委員会事務点検・評価について事務局より説明をお願いします。

○事務局（山田生涯学習振興課長）議題１「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況に係る千葉市教育委員会事務点検・評価について、ご説明いたします。

資料２の１１４ページをお願いいたします。

第５次千葉市生涯学習推進計画の概念図でございます。

「第５次千葉市生涯学習推進計画」は、計画の基本といたしまして、「市民が自ら学んだ成果を生かし、活力あるコミュニティを形成できる環境づくりを進める～学びを通して地

域がつながるまち　千葉市～」を目標に、３つの施策ということで、学習活動のきっかけの提供、多様な学習機会の確保、学びを生かしたコミュニティづくりの３つを施策展開の方向性の柱として、平成２８年３月に策定されました。

この度、計画期間の初年度である平成２８年度が終了したため、今回資料１に基づきまして、その進捗状況について、説明させていただくものでございます。

なお、こちらの進捗状況につきましては、議題にもありますとおり、「千葉市教育委員会事務点検・評価」の一部として掲載されます。

「千葉市教育委員会　事務点検・評価」とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、教育委員会に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行うもので、本日ご説明させていただく「千葉市生涯学習推進計画の進捗状況」と、別途、学校教育分野の計画である「千葉市学校教育推進計画の進捗状況」を合わせ、「千葉市教育委員会　事務点検・評価」の形でまとめ、千葉市教育委員会会議での議決を経て、平成２９年第３回千葉市議会定例会で報告し、公表する予定でございます。

それでは、お手元に配付させていただきました資料１「『第５次千葉市生涯学習推進計画』の進捗状況」をご覧ください。

１ページをお願いいたします。

はじめに、評価の基準についてご説明させていただきます。

「成果指標」における「達成状況」の記載についてですが、平成２８年度末の現状値が平成３０年度末の目標値以上であった場合は「◎」、「平成２８年度末の現状値と平成２７年度末の現状値の差」が「平成３０年度末の目標値と平成２７年度末の現状値の差」に対し６０％以上であった場合は「○」、「平成２８年度末の現状値と平成２７年度末の現状値の差」が「平成３０年度末の目標値と平成２７年度末の現状値の差」に対し６０％未満であった場合は「△」、平成２８年度末の現状値が平成２７年度末の現状値未満であった場合は「×」の４段階評価でございます。

次に「アクションプラン」における「進捗状況」の記載についてですが、計画に対して概ね計画通り進捗している場合は「順調」、計画事業が計画期間の途中で終了する場合は「達成」、計画に対して事業進捗に遅れが出ている、または、「継続」で事業規模を縮小した場合は「遅れ」、事業を休止し、次年度以降に再び実施する予定の場合は「休止」、事業を中止し、今後も実施しない場合は「中止」としました。

それでは２ページをお願いいたします。

大項目「１　学習活動のきっかけの提供」の「１－１　生涯学習の普及啓発」でございます。

説明の前に、表のつくりをご説明いたします。

２ページの指標の左側の番号が、３ページの表の番号に対応しております。

まず、「成果指標１　生涯学習に関心のある市民の割合」についてですが、各種媒体による学ぶ場と学ぶための情報提供や、公民館・生涯学習センターの施設稼働率の向上、過去最高の入場者数を記録した「科学フェスタメインイベント」などの学習のきっかけづくりとなる生涯学習イベントの開催により、平成27年度末に比べて3.6ポイント上昇しました。

次に、「成果指標２　生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」についてですが、平成27年度末に比べまして37.1ポイント下降しておりますが、アンケートの設問項目を直接的な表現に変えたため、一概に比較することができない結果となっております。

４ページをお願いいたします。

「アクションプラン１　学ぶ場と学ぶための情報提供の充実」についてですが、生涯学習センターにおいて、ホームページや市政だより等の広報紙の発行とともに、Twitter や平成27年度から開始したFacebookを積極的に活用し、原則毎週更新することにより、講座、イベント及び地域の情報等を広く発信するなど、様々な手法により市民に情報を得る機会を提供し、生涯学習の関心を高めることに寄与したと考えられます。

次に、「アクションプラン３　ｅラーニングの普及事業の実施」についてですが、生涯学習センターにブラウジングカフェを新たに設置し、民間事業者と連携したオンライン動画学習サービスを無料で体験することにより、最新のｅラーニングに触れる機会を提供し、市民の学習機会の拡大を図りました。

５ページをお願いいたします。

「１－２　学習環境の整備」でございます。

「成果指標３　市の生涯学習施設が５年前よりも利用しやすくなったと考える市民の割合」については、「生涯学習関係団体アンケート」を各目標年度に実施するため、平成 28 年度は未実施であり、今年度は達成状況を確認できません。

次に、「成果指標４　生涯学習施設を年１回以上利用したことのある市民の割合」については、「1万人まちづくりアンケート」を３年に１回実施するため、平成28年度は未実施であり、今年度は達成状況を確認できません。

次に６ページをお願いいたします。

「アクションプラン１　生涯学習施設等の利用環境の充実」については、生涯学習センターでは、稼働率の低いAV調整室を幅広い用途に使用可能な多目的室に改良するなど、利用促進を図ったことにより、施設稼働率が平成28年度末で58.2％と、平成26年度末に比べて6.7ポイント上昇しました。

また、公民館では、地域団体等の利用が増えたため、施設稼働率が 46.8％と、平成 26 年度末に比べて1.6ポイント上昇しました。

次に、「アクションプラン２　図書館サービスの向上」については、地区図書館の開館時間の拡大と分館における休日開館の実施を計画しておりましたが、インターネットの普及を受け、図書の貸出・返却に関して時間・場所の制約がない電子書籍の導入について検討しています。

次に、「アクションプラン４　公民館の改築」については、発注業務や開館準備作業を早めたことや、工事が順調に進んだことから、犢橋公民館の供用を、平成29年10月に前倒しして開始する予定となりました。

次に、「アクションプラン６　中央図書館・生涯学習センター等の改修」については、南

部青少年センター・みやこ図書館白旗分館の受水槽更新工事は、緊急性が低いとの判断から、改修の実施が先送りとなりました。今後、緊急性を考慮しながら、建築部・資産経営部と連携し、必要な改修や修繕を行っていきます。

８ページをお願いいたします。

大項目「２　多様な学習機会の確保　」の「２－１　郷土への愛着を深める学習機会の提供」でございます。

「成果指標５　郷土の歴史や文化財に愛着を感じる市民の割合」については、「1万人まちづくりアンケート」を3年に1回実施するため、平成28年度は未実施であり、今年度は達成状況を確認できません。

９ページをお願いいたします。

「アクションプラン１　加曽利貝塚の国特別史跡指定」についてですが、指定に向けた取組みとして、今までの発掘調査の成果をとりまとめた「史跡加曽利貝塚総括報告書」を平成29年3月に刊行し、史跡の価値を示す貴重な資料となっています。また、加曽利貝塚の国特別史跡指定に関し、国の文化審議会は、平成２９年６月１６日に、加曽利貝塚を特別史跡に指定することを文部科学省に対して答申しました。なお、指定は官報告示を以って決定され、秋頃の見通しとなっております。

次に、「アクションプラン２　文化財の保存･活用の推進」についてですが、ゆかりの家・いなげは、当初予定していた外壁等腐食箇所修繕や電気設備工事といった改修工事の緊急性が低く、先送りとなりました。今後、地域有形文化財としての価値を損なうことがないよう、緊急性を考慮しながら適切な補修を行っていきます。

旧検見川無線送信所につきましては、平成25年度の文化財調査において緊急に修繕すべきとされた屋上の防水改修工事が完了し、雨漏りによる躯体のこれ以上の劣化を防ぐことができましたが、外壁補修工事は、外壁の劣化を防ぐため、補修箇所や方法等を見直すこととなりましたので、今後、改めて検討してまいります。

次に、「アクションプラン３　郷土の理解を深める講座・事業の充実」について、千葉氏など郷土の歴史の理解を深める講座・事業は、千葉開府890年ということもあり、関心が高く、出前授業だけでも約4,700人が参加するなど、常設展や講座参加者を含めると年々増える傾向にあります。

１１ページをお願いいたします。

「２－２　市民ニーズに対応した学習機会の提供」でございます。

まず、「成果指標６　公民館の講座の参加者の満足度」については、市民の学習ニーズに対応するため、幅広い分野にわたる学習機会の提供を行い、平成28年度末は平成27年度末に比べて0.3ポイント上昇しましたが、伸び悩んでいます。今後、市民のニーズを的確に把握することなど、公民館の講座の参加者の満足度の上昇を目指していきます。

次に、「成果指標７　『科学都市ちば』の認知度」については、科学館の入館者数が417,499人と過去最高であったことや、千葉市科学フェスタメインイベントの参加者数が20,918人と過去最高であったことにより、「科学都市ちば」の認知度が上がっていると考えられま

す。特に、アンケートの結果によると、千葉市科学フェスタメインイベントの来場者の約61%が初めてこのイベントに参加したとなっており、科学都市ちばの認知度の向上に寄与しました。

１３ページをお願いいたします。

「アクションプラン４　『(仮称) 瑞穂情報図書センター (現：みずほハスの花図書館)』の整備」についてですが、くつろぎながら読書を楽しめるスペースの設置に加え、自動貸出機、タブレット端末及びデジタルサイネージ等のＩＣＴ機器を活用したサービスの導入など、新たな取組を行う図書館として、花見川区役所１階に整備を進め、平成２９年３月に供用を開始しました。今後、みずほハスの花図書館で導入した、さまざまな先進的な取組について効果の検証を実施します。

次に、「アクションプラン６　未来の科学者育成プログラムの充実」についてですが、未来の科学者育成プログラムジュニア講座の回数を、2 回から 3 回に拡充することにより、より多くの児童が受講することができ、未来の科学者育成という目標に対し、裾野を広げることができました。

次に、「アクションプラン７　キャリア教育の推進」については、e ラーニングとして、生涯学習センターで民間事業者と連携したオンライン動画学習サービスを実施し、学び直し・キャリアアップに寄与する学習機会を提供できました。

次に、放課後子ども教室の推進については、放課後子ども教室のモデル校の 10 校では、総合コーディネーターの活動支援により、プログラムの増加とともに実施日数の増加が見られたものの、地域の負担が大きく、1 校あたりの実施日数は減少しています。今後、平成 29 年度から開始する子どもルームとの一体型事業の検証を行うとともに、総合コーディネーターによる活動支援方策を検討し、全ての子どもに安全・安心に過ごせる居場所と「学びのきっかけ」の提供を目指します。

次に、「アクションプラン９　子ども読書活動の推進」についてですが、子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるような環境整備や適切な支援を行いました。また、子どもが読書で感じたことを記録することで本を読むきっかけを作る「まほうの読書ノート」の配布や、学校等での読書活動の推進により、「1 か月間に読んだ本が 0 冊の児童生徒の割合」の目標値を達成しましたが、「読書習慣のある児童生徒の割合」の上昇には、効果が表れるまで時間がかかると思われます。

次に、「アクションプラン１１　家庭教育支援事業の実施」についてですが、家庭教育の支援や子育ての不安や悩みを解消するため、「子育てママのおしゃべりタイム」を公民館で実施しました。しかしながら、子育てサポーターの確保が難しく、実施回数や実施場所の拡大を進めることが難しい状況です。今後、人材の確保等、実施体制の強化を図りながら、地域の子育て世代のニーズに応じた実施場所について検討・拡充していきます。

１８ページをお願いいたします。

大項目「３　学びを生かしたコミュニティづくり」の「３－１　地域の担い手となる人材育成」でございます。

「成果指標８　市民のボランティア活動・地域活動への参加状況」については、ボラン

ティア・地域リーダー等の育成や、ちば生涯学習ボランティアセンターにおけるコーディネート件数の増加などが、徐々に参加状況の増につながっていると思われます。

１９ページをお願いいたします。

「アクションプラン１　団体・グループ活動のリーダーの養成・育成」について、生涯学習センターでは、定員を超える応募のあったPTA役員研修会や、地域コーディネーター研修において、受講できる人数を増やすことにより、より多くの指導者を養成することができました。

次に、「アクションプラン２　ボランティアの育成」について、ちば生涯学習ボランティアセンターの登録者数は、ボランティアを紹介するイベントである「ボランティアフェア」や、ボランティアデータベースへの情報提供などにより、ボランティア人数を増やす取組みを行っていますが、高齢を理由にボランティアを引退される団体もあるため、現状、ボランティア登録者数の増加には至っていない状況です。

次に、「アクションプラン３　家庭教育支援事業の実施」について、家庭教育支援チームは、既存の2チームについて、新規の協力者の確保が難しく、チーム数を増やすことが困難な状況です。また、公民館で実施している「子育てママのおしゃべりタイム」の担い手である子育てサポーターも、新たな人材の確保が困難な状況です。

２１ページをお願いいたします。

「３－２　学習成果の活用機会の提供」でございます。

「成果指標９　年2回以上学習成果を地域に還元する団体の割合」については、「生涯学習関係団体アンケート」を各目標年度に実施するため、平成28年度は未実施であり、今年度は達成状況を確認できません。

２２ページをお願いいたします。

「アクションプラン４　ボランティアセンター等におけるコーディネートの実施」については、指導者や協力者が身近に見つからないという方と、ボランティアとして自身の知識・経験を地域社会に役立てたいという方の橋渡しを積極的に行うことで、ちば生涯学習ボランティアセンターにおけるコーディネート件数が平成27年度に比べて33件増加し、生涯学習ボランティア活動が活性化されました。

次に、「アクションプラン５　生涯学習ボランティアの活動場所の提供」についてですが、生涯学習センター内に「ボランティア活動スペース」を設置し、ボランティアセンター新規登録者や未活動登録者によるミニ講座を実施することで、ボランティア活動のPRの機会となり、ボランティアセンターへのコーディネート実施件数が平成27年度に比べて33件増加したことに貢献しました。また、ボランティア登録者のスキルアップにもつながりました。

２５ページをお願いいたします。

「３－３　市民の参加・協働による学習活動の推進」でございます。

「成果指標１０　住民同士で地域課題の解決に取り組んでいると考える市民の割合」に

ついては、「1万人まちづくりアンケート」を3年に1回実施するため、平成28年度は未実施であり、今年度は達成状況を確認できません。

２６ページをお願いいたします。

「アクションプラン１　多様な主体による学習活動の推進」については、生涯学習センター、公民館などにおいて、NPO法人や高等教育機関、社会教育関係団体等の多様な主体と連携した講座を実施し、それぞれの専門性を生かすことにより、さまざまな分野の高度な内容の学習活動を行うことができました。

次に、「アクションプラン２　公民館を拠点とした地域連携の推進」については、平成27年度で地域連携を検討し、平成28年度において、緑が丘公民館で4事業、打瀬公民館で1事業を実施することができ、地域住民のつながりに寄与しました。

以上、「『第5次千葉市生涯学習推進計画』の進捗状況に係る千葉市教育委員会事務点検・評価について」のご説明とさせていただきます。

委員の皆様から、ご意見をいただき、今後の事業推進等に反映したいと考えておりますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

○西川会長　ただいまの説明につきまして、ご意見等ございましたらお願いします。

○小川委員　９ページの文化財の保存活用についてお伺いいたします。旧検見川無線送信所の修繕について、これは、検見川稲毛土地区画整理地区内にある建物ですが、地元の人なんかも文化財的価値があるのかどうかわからない。一時は、不良のたまり場になってしまっていて、非常に治安が悪いということで騒がれたこともある。当時設計した人が、有名な建築家ということで、建築家の方々が一部保存を主張しているということなのですが、これに千葉市が金を投資して、改修する価値があるのか、文化財的価値について説明いただければと思います。

○事務局（芦田文化財課長補佐）　文化財課でございます。旧検見川無線送信所につきましては、日本の近代建築の中では有名な旧逓信省の吉田鉄郎さんという方の設計で、建物的な価値につきましては、2015年度に文化財調査を行いまして、吉田鉄郎さんの初期の作品で、文化財的な価値は十分にあるということでございました。しかし、全体を文化財として再整備して、中を公開するためには、費用もかなりかかりますので、当面、建物がこれ以上痛まないようにということで屋上の防水工事を昨年度実施いたしました。壁も劣化して、コンクリートが剥がれたりしておりますので、その補修を今後検討していく予定でございます。今すぐに、動くという状況ではありませんけれども、現在、建物として保存する方向で検討しているところでございます。

○西川会長　どうもありがとうございました。なかなか難しいようですね。結構子どもたちが、小学校なんかですと千葉大がちょっとしたイベント等をやっているのですよね。

○事務局（芦田文化財課長補佐）　無線関係の方々も、そこが国際無線の発祥の地ということもあって、イベントを開いたりしたということも聞いております。

○西川会長　そんな状況でございます。ほかにはどうでしょうか。

○髙塚委員　一つよろしいでしょうか。

○西川会長　はいどうぞ。

○髙塚委員　この評価を見ると、科学館に非常に高い評価になっているように見えます。聞くところによると、今年度、科学館の指定管理者が変わったということを聞いたのですね。やはりこの評価ですと、そういうような感じで、非常になんかおかしいと。指定管理とはそういうものだと思うのですけれども、実際こう見ていると、やはりこう感じてきます。これだけ高い評価をもらっているのにというような感じがしたのですけれども。実際は、指定管理の会議の中で決めていますから、議論することはないのですけれども、一つの感想として、やっぱり思うところがあります。

○西川会長　担当の方からお答えできますか。

○事務局（山口統括管理主事）　科学都市戦略の山口でございます。指定管理につきましては、この４月、新しい指定管理者に代わったところです。その変更に際しましては、昨年度、指定管理者の募集をしたわけですが、２者から応募がありまして、その中で、計画等を評価した上で、評価委員の方に、指定管理予定候補者を決定していただいたという経緯がございます。その計画に基づきまして、今後５年間見通した場合に、新しく変わったコングレ・東急コミュニティー共同事業体という団体がふさわしいだろうというような評価をいただいて決定したという経緯がございます。４月に代わったばかりですので、また今後どういう管理運営になっていくかというところを今チェックしているところでございます。また変更がありましたら、ご報告さしあげることになろうかと思います。

○西川会長　よろしいですか。他に。はいどうぞ。

○小澤委員　放課後子ども教室の推進についての質問なのですけれども、学校評議員会とかそういうところに今年度参加していて、学校の現場の方から、これから３０年に向けて授業時間が増えてくるということと、それから、高学年までの学童が実施されることによって、放課後子ども教室の時間が取れないのではないかっていうふうに現場の方では言われています。放課後子ども教室の最終の時間が、６時間目まで授業をやってしまうとできなくて、現場のコーディネーターとか、実行委員なんかにも言われています。今後、推進はしていっているようだけれども、実際問題、授業が終わる時間などで子どもたちを帰さなくてはいけないので、どうなるのだろうと不安が出ています。その推進と一方を含めて

のことをどういう風に今後していくのかと、ぜひ教えていただければと思います。

○西川会長　放課後子ども対策担当課長。

○事務局（君塚放課後子ども対策担当課長）　放課後子ども対策担当でございます。今、放課後子ども教室は主に、５時限目で終わる木曜日を中心に実施しているところですが、学校と子どもルームと放課後子ども教室との情報交換がまだ十分にできていない部分もあるということは認識しておりまして、これから、３者で、学校は教頭先生になるかと思うのですけれども、年間２回ないし３回くらい情報交換を行いながら、お互いそれぞれの事業をどう進めていったらいいのかというところについて、よりよい判断をしていきたいと思っております。

○西川会長　小澤委員さんよろしいですか。

○小澤委員　はい、大丈夫です。ありがとうございます。

○長澤委員　よろしいでしょうか。今と関連して、１６ページのところなのですけれども、放課後子ども教室のところで地域の負担が大きいという表現があるので、この地域の負担が大きいというのをもう少し具体的に知りたいな、というのと。それから１７ページも、子育てサポーターの確保が難しいというようなところがほかに２か所くらい出てきたと思うのですけれども、そのあたりの背景とか、具体的な形を聞かせていただけたらと思います。

○事務局（君塚放課後子ども対策担当課長）　放課後子ども教室の地域の負担でございますけれども、まずは、今コーディネーターとして、放課後子ども教室を切り盛りしてくださっている方々は高齢化が進んできており、その後継者を探す状況になってきているのですけれども、なかなかその後釜になる方が見つからないという点、また、子ども達のためにどういったプログラムを開発、実施したらよいのか、子どもたちを楽しませるための手段などがなかなかうまく見つけられないというような課題がございます。それからなによりも、コーディネーターさん一人では切り盛りできない中で、子どもの見守り等をやってくださる方がなかなか見つからない。保護者の方々、みなさん働きに出ている方が多いという中で、保護者の協力がなかなか得られない。地域の方々も、協力をいただける方が見つからないというような状況でございます。それと似たような状況なのですが、子育てサポーターにつきましても、子どもを育てた経験のある方にサポーターをお願いしているところなのですが、そういう方々もやはり忙しい。地域の中で探しているのですが、お勤めがあったり等で、なかなかご協力いただける方が見つからない。このサポーターにしても、放課後子ども教室の関連にしても、ほぼ皆様ボランティアの状況でございますので、それに対しての報償というものが出せない状況の中で、見つからないような状況になっているところでございます。以上でございます。

○岩切委員　今後の進捗のことがありますので、わからないことをお聞きしたいのですけれども、進捗状況の13ページのですね、読書習慣のある児童・生徒の割合とか、小学校5年生、中学校2年生とかありますが、この調査というのは、学校が実施した調査なのか、それ以外で中央図書館とか、公民館の図書室とかそういうところの調査なのか、どちらでしょう。

○事務局（太田読書環境整備担当課長）　中央図書館の太田と申します。これにつきましては、小学校とかが全国の統計の調査がございまして、そちらで集めている調査になります。図書館独自でやっているものではございません。

○岩切委員　そうすると、千葉市の生涯学習ということでの実態調査みたいなものは行われていないのですか。

○事務局（太田読書環境整備担当課長）　生涯学習の調査ということではなく、全国的にやっている調査で、2週間の期間で何冊読んだかという形で出していますもので、全国的にそのような状況でやっていると思います。特に、千葉市で独自で出しているというものではないです。

○岩切委員　中央図書館とか地区の図書室の利用状況みたいなものの調査というのは、現在はないのですか。

○事務局（太田読書環境整備担当課長）　はい。来館して本を読まれているだけだと、数としては出てこなかったりしますので、図書館での独自の調査というのは行っていません。

○西川会長　まだありますか。

○岩切委員　ありません。

○松波委員　すみません。一ついいですか。

○西川会長　どうぞ。

○松波委員　すぐ言おうと思ったのですがちょっと飛んじゃったのですけれども、先ほどの放課後子ども教室の件と、子育てサポーターの確保が難しいという件。長澤先生からご質問いただいていて、あっさり答えていただいたのですけれども、実際には、地域に頼りすぎているのではないかというところがすごくありまして。本当に、子育てサポーターの確保も、放課後子ども教室の確保も、その地域でやっているわけですよね。私は子育てサポーターを16年やっているのですけれども、なかなか私の後任はおらず、私の知り合いもずっと長くやっているのですけれども、後任を自分たちで探している状態ですので、先ほどから出ている若いお母さんは、今も幼稚園に預ければパートでもお仕事に出ていて、小

学生のお母さんはほとんどお仕事をされているので、この放課後子ども教室も同じなのですけれども、なかなかその保護者会で手伝ってくれる人も少なく、一応年間何回手伝ってくださいというものをお母さんたちには出しているのですけれども、先ほど言われた、地域の方たちの年齢が上がってしまって、本当に後任の方がいないという状況にあるので、こういう、ほとんどボランティアと言っていましたけれども、ちょっとした報奨金をいただいていますけれども、今後のすごく大きな課題なんじゃないかなと私は思っております。私の住んでいる地域では、地域の人たちは本当にお手伝いだけで、保護者会に運営を任せている状況なので、それまでは私たちがずっとお手伝いしていたのですけれども、じゃあお母さんたちに全部お願いしようということでお願いしているのですね。もう一つの、別の小学校区では、地域の方々が本当にずっとお手伝いをしていて、月３回くらいやっている状況なのですけれども、本当にその状況をもっともっと各放課後子ども教室どうやっているのかというのを、どうやって探しているのかというのも、もっと詳しく調べていっていただきたいなというのはすごくあります。本当に次の方、次の世代の若い方たちがいないのです。だから、いつまでも若手と言われてしまっているボランティアの方がいっぱいいるのですけれども、そうじゃなくて、本当は、もっと若い人たちにいろんなことを継いでいきたいというのが、今、私がいつも思っている現状です。子育てサポーターも同じです。そのほかのボランティアも同じなのですけれども、確保は本当に難しいと思っています。この紙面上だとちょっと簡単そうに見えてしまうなというのは思っているところです。

○西川会長　ご意見ですね。お答えは。

○事務局（君塚放課後子ども対策担当課長）　たしかに、地域の皆様に頼っているのは非常に多いと思いますし、どうしてもボランティアといいますと、いろいろな活動をしている中、顔を合わせる方々がほぼ同じ用な顔ぶれになっているような状況もあるようなことも認識しております。今ご意見いただいたように、うまく回っている地域がどのように後継者を探してご協力いただいているのかを、現場に足を運びながらいろいろ伺っていきたいと思います。情報を集めた際には、それをまたご提供できればと考えております。

○西川会長　君塚委員さん。

○君塚委員　今の話と関連してですね、案外、そういうサポーターのことをやっているということを知らない人が多いと思うのですよ。他の部分もそうだと思うのですが、関係者は知っているのですけれども、他の住民は知らないということが結構多いので、ＰＲがもっと他に、たとえば自治会の回覧板で回すとか、もっとこう広げる方法がなにかあるんじゃないでしょうか。公民館での活動なんか、グループがたくさんあるのですよね。実際、親の世代だと確かに大変だと思いますよ。仕事もあるし。たとえばシニア層の人たちで、高齢といってもシニア層の人たちは元気な人がいっぱいいるのですよ。講座の中でいろいろな活動やってる人たちに、そういうことを知らせる方法を何か考えてやれば人材はどこか見つけられるんじゃないか。特に、男性よりも女性の方は元気な人がいっぱいいますので。そういうことで、こういうことをやれるのだからということを広げて行ったら方法は

何かあるのではという気がするのですよね。

○松波委員　私は割と、ここととは別の社会福祉協議会の方にもちょっといろんなボランティアをやっているので、そちらの広報誌とかにも載せていただいたりとかはしてます。なかなかでも、それを読んでくれている人も少なかったり。いろんな広報活動はちょっとずつしています。それから、子育てサポーターは、本当に自分たちで宣伝している形を取っていて、こういうのをやっているのですっていうのはアピールしているのです。だから本当に、今言った元気な世代の人たちにも、もっともっとアピールしていけばいいのかなというのは思います。でも、自分たちでやっている状況ですので。たまたま他の関連で出来るので、そちらでアピールしたりすることはしていますけれども、もっとだから何かでアピールしていただけたらというのがあります。

○西川会長　はい。

○秋葉副会長　いいですか。

○西川会長　どうぞ。

○秋葉副会長　進捗状況の初年度ということであったわけですけれども、一つ一つのターゲットというか、誰を対象としているかというのをはっきりさせていかないと、単なる数値でいじっているだけではなくて、本当にきめ細かい事業をやろうとすると、やっぱり誰が対象であり、子どもだったらその親も関係者になるのでしょうが、そういう人たちからどうやって意見を聞くかというのを考えていかないと、単なる数字だけで終わってしまうような気もするのですけれども。おそらく、今後の大変な作業になると思うので、今後の課題としてちゃんと明確にしていく必要があるのではないかという気がするのです。

○事務局（山田生涯学習振興課長）　ありがとうございます。今後の事業を進めていくうえでの参考とさせていただきながら事業に反映させていただきたいと思います。

○西川会長　今後の課題として、ぜひお願いしたいと思います。

○髙塚委員　一ついいですか。

○西川会長　どうぞ。

○髙塚委員　科学館に関連してですけれども。４月にもらった教育予算を見てみますと、科学館の費用が２，０００万円ほど減っているのですよね。前はかなり評価が高かったのですけれども、２，０００万円減ったと。私は科学館に頑張ってもらいたいのですね。評判がいいから。２，０００万円減ったことで、千葉市科学館が頓挫しないような形で進めて行ってほしいなと思います。２，０００万円というのは５億５，０００万円だったのが

５億３，０００万円くらいになったのですね。その辺は意見だけですけれども。

○西川会長　生涯学習部長。

○事務局（大崎生涯学習部長）　指定管理者の再選定に当たり、来館者の数をこれまで以上に拡大していくという提案がありました。それに伴って、指定管理者の収入が増加することから、委託料の額が２，０００万円ほど削減されたという理由です。今後も、事業に必要な予算については、確保してまいります。

○髙塚委員　よろしいですか。今年ですね、科学館の講座が非常に多くなったわけです。それで職員がそれについていっていますので、その辺も、入館者数との兼ね合いの問題ですので、十分見てほしいなと思います。働く人の立場もありますので、入館者数だけじゃなくて、そんな部分も見てほしいなと思います。よろしくお願いします。

○西川会長　あとはよろしいでしょうか。なければ、これで第１回の生涯学習審議会は終了したいと思います。

（午前１１時１０分閉会）

生涯学習審議会会長　西川　明